

結麗阿曹篤 Kreosotum ノ解熱作用ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38514

○結麗阿曹篤 *Kreosotum* ノ下熱作用ニ就テ

福岡醫科大學藥物學教室

助 手 溝 口 龍 三

第一章 緒 言

西歷千八百三十二年山毛櫟樹ノ乾餾產物タル釜兒ヲ割温蒸餾ニ附シ攝氏二百度乃至二百三十度ノ熱ニ於テ餾出スル部分ヲ採集シ爾後其餾液ニ那篤倫滴液ヲ加ヘ振盪シ那篤倫滴液ニ溶入セズ油狀ヲナシテ液面ニ浮遊シ來レル「フエノール」類似ノ部分ヲ除去シ其下層ヲナセル液分ヲ取り之ニ稀薄硫酸ヲ加ヘテ酸性トナシ茲ニ拆出シ來レル油分ヲ分離シ更ニ之ヲ蒸餾シテ攝氏二百〇五度乃至二百二十度ノ熱ニ於テ蒸餾スル部分ヲ採集シ以テ之ヲ結麗阿曹篤ト稱シ市場ニ販賣スルニ至レリ當時ハ其煙氣ヲ應用シ所謂煙氣室ナルモノヲ設ケ其中ニ肉類ヲ納メ以テ防腐藥トシテ應用セラレタリ即チ結麗阿曹篤ナル名稱モ *Creosols* 「クレアス」(肉) *Creosol* 「ソート」(保貯)ニ基因ス市場ニ販賣セラルル結麗阿曹篤ハ無色透明或ハ僅微ニ類褐黃色ヲ呈スル油狀ノ液ニシテ反應中性ヲ呈シ強ク光線ヲ屈曲シ竄透性ノ煙臭ト熾クガ如キ味ヲ有ス其比重ハ一、〇八ニシテ百二十分ノ熱湯ニハ透明ニ溶解シテ之ヲ冷却スルトキハ再び油狀ノ点滴ヲナシテ分離スルモノナリ之ニ反シテ亞爾箇保兒及ビ依的兒等ニハ容易ニ混和ス其水溶液ニ稀薄過格魯兒鉄液ヲ加フルトキハ速ニ美麗ナル綠色ヲ呈ス然レモ其ノ調度ノ如何ニ由テハ黃褐綠色ヲ徴シ或ハ深綠色ヲ呈ス而シテ終ニ汚穢綠色ニ至ル結麗阿曹篤ハ單一ナル物体ニアラズ即チ其重要ナル成分ハ *Guajacol* 「グアヤコール」即チ *Brenzcathechin* *Monomethylaether* $C^9H^7(OCH_3)(OH)$ ニシテ次ハ *Kreosol* 「クレソール」即チ *Homobenzcathechin*

Methylaether $C^6H_3(CH_3)$, (OCH_3) , (OH) . トス其他多ク、Kresol「 $C^6H_4(CH_3)$, (OH) . Methylkresol「 $C^6H_3(CH_3)_2$, (OCH_3) , (OH) 」及「Xylenol (phlorol)「 $C^6H_2(CH_3)_2$, (CH_3) , (OH) . 其他瘡瘡木脂分解產物ヲ含有ス然リ而シテコノ結麗阿曹篤ヲ治療ニ應用セシハ千八百八十九年獨乙醫家 ゾンメルブロッ ト氏 Sommerbrodt ヲ以テ之ガ稿矢トス即チ氏ガ結麗阿曹篤ノ殺菌作用ヲ應用シテ慢性呼吸器病及ビ肺結核ヲ治セント企テシ以來其應用大ニ盛ントナリ結麗阿曹篤「グアヤコール」並ニ其等ノ炭酸「エステル」ナル炭酸「グアヤコール」(Duotal) 及ビ炭酸結麗阿曹篤(Kreosol) 等ヲ或ハ蒸氣トナシテ吸入セシメ若クハ皮下ニ注入シ或ハ内服セシムル等種々ノ方法ヲ以テ目的ノ成就ヲ計ルニ至レリ而シテ化學ノ進歩ト共ニ種々ノ新藥例ヘバ「Thioool」「チヲコール」Eosot「フソート」Sullosot「ズルフオソート」Geosot「ゲオソート」Heto-Kresol「ヘトクレゾール」等其他異名同質ノ結麗阿曹篤代用品ヲ試用セリ而シテ其効否ハ諸家ノ說未ダ一致スル所アルヲ見ザルガ如シ然レモ結麗阿曹篤ノ臨床上ノ實驗ニヨルニ之ヲ數ケ月間繼續シテ肺結核患者ニ内用シタル場合ニ於テハ食慾亢進シ營養狀態佳良トナリ肺ノ局部現象例ヘバ水泡音、咳嗽喀痰、等ヲモ輕減スト云フ斯ノ如ク結麗阿曹篤ノ奏効アル所以ハ其殺菌作用ニヨリテ直接ニ結核菌ニ働クニ非ザルヤ明ニシテ唯腸胃ノ異狀醱酵ヲ制止シ食慾ヲ進メ且ツ食物ノ滋養分ノ吸收ヲ増サシメ從テ病者ノ營養ヲ可良ニナサシムル等結核患者ニ對シ望マシキ結果ヲ來スモノナリトハ一般ニ信セラル、トコロナリ

結麗阿曹篤ハ芳香化合物ノ一種ニシテ彼ノ石炭酸並ニ其他ノ「フェノール」類「フェノール」「エステル」及ビ芳香炭化水素ハ一般ニ通有セル藥理的作用ヲ呈シ凡テノ有機體ノ原形質ヲ撲滅スル作用アルト共ニ健體若クハ熱性病者ノ體溫並ニ新陳代謝ニ影響ヲ及ボスモノナリ故ニ結麗阿曹篤モ亦芳香化合物一般通有性トシテ下熱ノ作用アルヲ思ハシム然ルニ余ノ知り得タル成書ニ於テ特ニ之ガ藥用量ニ於ケル下熱ノ作用ニ就テ研究シタル業績アルヲ見ズ之レ大ニ

遺憾トスルトコロナリ如何トナレバ結麗阿曹篤ノ藥用量ニシテ果シテ下熱ノ作用アリトセンカ彼ノ肺結核患者ニ於ケル消耗熱 *Febnis hectica* 並ニ熱發性ノ傾向ヲ有スルモノニ作用スル効果ハ蓋シ著大ナリト云フベシ茲ニ於テ余ハ結麗阿曹篤、炭酸結麗阿曹篤、並ニ「グアヤコール」ヲ取り之等ノ下熱作用如何ニ對シ聊カ實驗成績ヲ敢テ報告スルコト、セリ

第二章

第一節 下熱作用

本實驗ヲナスニ當リテハ家兎ニ豫メ溫刺ヲ (*Wärmestich*) 施シ以テ熱性ノ狀態トナシ置カザルベカラズ即チ西歷千八百八十五年アロンソン氏 *Aronson* 及ビザックス氏 *Sachs* ガ家兎ニ就テ証明セラレタル線狀體ニ器械的刺戟ヲ施スニアリ所謂溫中樞ハ頭蓋骨ノ矢狀縫合ト冠狀縫合ノ聯合スル部分ノ側位詳言スレバ其結合スル点ニ於テ冠狀縫合ノ前方一乃至二「ミリメートル」ニシテ矢狀縫合ノ側部僅ニ一乃至二「ミリメートル」ノ部分ニアリ今一家兎ヲ取りテ體重ヲ量リ體溫ヲ檢シ之ヲ手術臺上ニ腹位ヲ取ラシメテ固定シ頭蓋骨ヲ露出シ即チ溫中樞ノ部位ニ消毒法ヲ行ヒ圓鋸鍵 (*Trepan*) ヲ以テ穿顱法 (*Trepanierung*) ヲ施シ其部位ノ硬腦膜ヲ切開シ而シテ大約四乃至三「ミリメートル」ノ直徑ヲ有シ其尖端平滑ナル硝子棒ヲ以テ速ニ腦實質中ヲ通ジ顱殼ニ至ラシメ以テ刺入ヲ終ルトキハ迅速ニ抽出シ外皮部ハ再ビ縫合シテ放任スルモノナリ而シテ以上ノ手術ニ際シ術ノ宜敷ヲ得バ出血等起スコトナク試兎ハ手術前ト毫モ異ナルコトナシ而シテ三十分乃至一時間ヲ經過スレバ體溫ノ昇進ヲ示シ大略三時間乃至五時間ノ後ニ至テ時トシテハ一時間ニシテ極度ニ達シ稀ニハ四十二度五分ニマデ昇進ス而シテ此ノ體溫ハ殆ンド二十時間以上時トシテハ四十時間ニ亘リテ持續スルコトアリ斯クシテ體溫ノ極度ニ昇進シタル時ニ於テ結麗阿曹篤ヲ與フ但シ投與スル結

麗阿曹篤ハ豫メ五、〇「プロツェント」ノ乳劑トナス即チ亞刺昆亞護謨末ヲ以テ法ニ從ヒ乳化シテ製シタルモノナリ而シテ之ガ投與ニ先チ凡ソ四十度ニ加溫シテ用ユルコト、セリ之レ體溫ヨリ著シキ低溫ノ液体ヲ多量ニ投與スルハ體溫ハ幾分ノ下降ヲ免ルベカラザルヲ以テナリ而シテ體溫ハ普通之等ノ目的ニ使用スル檢溫器ヲ以テ檢ス即チ中性ノ脂肪油ヲ塗擦シ以テ之ヲ肛門中ニ挿入スルコト凡ソ七、〇「センチメートル」ノ長サニ達セシメ三分間ノ後之ヲ抽出シテ溫ヲ檢ス

結麗阿曹篤ノ家兎ニ於ケル致死量及ビ中毒量ハ體重一、〇基瓦ニ對シ二、〇立方「センチメートル」ヲ投與スルトキハ暫時ニシテ浮躁ノ行爲ヲナシテ眩暈アルヲ思ハシム歩行ハ蹣跚ノ狀態トナリ或ハ時トシテ眼球振子樣運動ヲ現ハス更ニ進ンデ反射機能ヲ失シ痲痺ノ狀態ニ陥リ每常終ニ死ノ轉歸ヲ取ル即チ結麗阿曹篤ノ家兎ニ於ケル致死量ハ體重一、〇基瓦ニ對シ二、〇立方「センチメートル」ナリ而シテ體重一、〇基瓦ニ對シ〇、三立方「センチメートル」ヲ與フルトキハ投與後十分乃至三十分ニシテ側位輕度ノ痙攣ヲ起シ凡ソ一時間ニシテ常態ニ復ス或ハ投與後異狀ヲ呈セザルコトモ屢々見ルトコロナリ而シテ一、〇基瓦ニ對シ〇、四立方「センチメートル」ヲ與フルトキハ每常痙攣ヲ起シ時々トシテ眼球振子樣運動或ハ咀嚼運動ヲ現ハシ而シテ呼吸ハ淺平トナル即チ結麗阿曹篤ノ家兎ニ於ケル中毒量ハ體重一、〇基瓦ニ對シ〇、四立方「センチメートル」ナリ

炭酸結麗阿曹篤ノ家兎ニ於ケル致死量ハ體重一、〇基瓦ニ對シ五、〇立方「センチメートル」ニシテ中毒量ハ二、〇立方「センチメートル」ナリ

「グアヤコール」ノ致死量ハ同ジク家兎ノ體重一、〇基瓦ニ對シ二、〇立方「センチメートル」ニシテ其中毒量ハ〇、五立方「センチメートル」ナリ

以上ノ炭酸結麗阿曹篤「グアヤコール」ノ家兎ニ於ケル一般症狀ハ前ニ述ベタル結麗阿曹ト通有ノ症候ヲ現ハシ以テ死ノ轉歸ヲ取り或ハ中毒ノ症候ニ陷ルモノナリ

今余ノ實驗ニヨレバ家兎ノ體重一、〇基瓦ニ對シ結麗阿曹篤〇、一立方「センチメートル」ヨリ追次増加シテ〇、二五立方「センチメートル」ノ間(即チ藥用量)種々ノ量ヲ以テ投與スルニ投與後十分乃至十五分ニシテ既ニ體溫ノ下降ヲ始メ終ニ一、〇度乃至〇、六度(實驗例第一ヨリ第八ニ至ル參照)ノ下降ヲ示ス炭酸結麗曹篤ニ於テモ其藥用量(中毒量ニ至ラザル量)ヲ投與シテ〇、六度乃至一、一度稀ニハ一、八度(實驗例第九參照)ノ體溫下降ヲ示ス而シテ「グアヤコール」ニ於テモ其藥用量ヲ投與シテ一、一度乃至〇、五度(實驗例第十參照)ノ體溫ヲ下降ス而シテ體溫ノ下降一定度ニ達スルトキハ再ビ漸次昇進スルヲ見ル今之等ニ對スル實驗例ヲ舉グレバ次ノ如シ

實驗例 (其一)

家兎ノ體重二〇〇三瓦手術前記ノ如シ

結麗阿曹篤ノ投與量體重一、〇基瓦ニ對シ〇、二五立方「センチメートル」ヲ與フ

時 分	體 溫 度	備 考
午前八時三十分	三八、五度	
全 八時三十五分	—	溫刺ヲ施ス
全 九時三十分	三九、七度	
全 十 時	四〇、七度	
全 十時四十四分	四〇、八度	

全 十時四十五分

結麗阿曹篤〇、五立方「センチメートル」ヲ五「プロツエン

全 十一時五分

ト」ノ乳劑トナシ之ヲ約四十度ニ加溫シ「ソन्दー」ヲ以

全 十一時三十五分

テ胃内ニ注入ス

全 十一時五十分

三九、四度

全 十二時四十分

三九、七度

午後 一時三十五分

四〇、三度

全 二時五十七分

四〇、八度

全 三時四十分

四〇、九度

試験中止

實驗例 (其二)

家兎ノ體重一七〇二瓦手術前速ノ如シ

結麗阿曹篤ノ投與量前ニ同シ

時 分

體 溫 度

備

考

午前 九時二十七分

三八、九度

全 九時三十分

溫刺ヲ施ス

全 十 時

四〇、〇度

全 十時五十分

四一、〇度

全 十一時三十五分

四一、二度

午後 十二時五十五分 四一、二度

全 十二時五十七分 |

全 一時十二分 四〇、七度

全 一時二十七分 四〇、六度

全 一時四十三分 四〇、六度

全 二 時 四〇、六度

全 二時四十分 四〇、八度

全 三時二十分 四一、〇度

試驗中止

實驗例 (其三)

家兔ノ體重三〇四八瓦手術前迹ノ如シ

結麗阿曹篤ノ投與量ハ體重一、〇基瓦ニ對シ〇、二立方「センチメートル」ヲ與フ

時 分 體 溫 度 備 考

午後 一時十五分 三八、九度

全 一時二十分 | 溫刺ヲ施ス

全 一時五十分 四一、〇度

全 二時十五分 四一、九度

全 二時三十分 四一、九度

結麗阿曹篤〇、四二立方「センチメートル」ヲ如上ノ方法
ヲ以テ約四十度ニ加溫シ「ゾンデー」ヲ以テ胃内ニ注入ス

全 二時三十二分

結麗阿曹篤〇、六五立方「センチメートル」ヲ五「プロセン

全 三 時

四一、三度

ト」ノ乳劑トナシ大約四十度ニ加温シ「ゾンデー」ヲ以テ

全 三時四十五分

四一、一度

胃内ニ注入ス

全 四 時

四一、五度

全 四時三十分

四一、五度

全 五 時

四一、七度

試験中止

實驗例 (其四)

家兎ノ體重二四三二瓦手術前述ノ如シ

結麗阿曹篤ノ投與量前ニ同ジ

時 分

體 溫 度

備

考

午前 九時二十分

三九、〇度

全 九時二十五分

温刺ヲ施ス

全 十 一 時

四〇、九度

午後 一 時

四一、六度

全 一時三十分

四一、七度

全 一時三十二分

—

全 一時四十七分

四一、一度

結麗阿曹篤ノ〇、四九立方「センチメートル」ヲ五「プロッ

セント」ノ乳劑トナシ之ヲ大約四十度ニ加温シ「ゾンデ

全 二時七分	四〇、九度	「」ヲ以テ胃内ニ注入ス
全 二時四十分	四一、一度	
全 三時十三分	四一、三分	
全 五時	四一、六分	試験中止

實驗例 (其五)

家兔ノ體重二五八二瓦手術前迹ノ如シ

結麗阿曹篤ノ投與量體重一、〇基瓦ニ對シ〇、一五立方「センチメートル」ヲ與フ

時 分	體 溫 度	備 考
午前九時	三九、二度	
全 九時五分	一	溫刺ヲ施ス
全 十時	三九、八度	
全 十 二時	四一、三度	
午後一時五分	四一、四度	
全 一時七分	一	結麗阿曹篤〇、三九立方「センチメートル」ヲ五、〇「プロ ツェント」ノ乳劑トナシ之ヲ大約四十度ニ加溫シ「ゾンデ 」ヲ以テ胃内ニ注入ス
全 一時二十五分	四〇、二度	
全 一時五十三分	四〇、二度	
全 二時十五分	四〇、三分	

全 二時四十三分 四〇、七度
 全 三時四十三分 四〇、七度
 翌日午前九時 四〇、七度 試驗中止

實驗例 (其六)

家兎ノ體重二〇三四瓦手術前述ノ如シ

結麗阿曹篤ノ投與量前ニ同シ

時 分	體 溫 度	備 考
午前九時四十七分	三九、〇度	
全 九時五十分	—	溫刺ヲ施ス
全 十 一 時	四〇、七度	
全 十一時五十七分	四〇、九度	
午後一時二十分	四〇、九度	
全 一時二十二分	—	
全 一時三十分	四〇、五度	
全 一時四十分	四〇、四度	
全 一時五十六分	四〇、〇度	
全 二時二十分	四〇、〇度	

結麗阿曹篤〇、三立方「センチメートル」ヲ五「プロツエン
 ト」ノ乳劑トナシ之ヲ大約四十度ニ加溫シ「ゾンデー」ヲ
 以テ胃内ニ注入ス

全 三 時 十 分 四〇、二分
全 四 時 四〇、七度 試驗中止

實驗例 (其七)

家兔ノ體重二三三〇瓦手術前述ノ如シ

結麗阿曹篤ノ投與量體重一、〇基瓦ニ對シ〇、一立方「センチメートル」ヲ與フ

時 分 體 溫 度 備 考

午前九時五十分 三八、八度

全 十 時 一 溫刺ヲ施ス

全 十時五十分 三九、〇度

全 十一時五十分 四〇、五度

午後十二時四十分 四一、〇度

全 一時十五分 四一、二度

全 一時十八分 一

全 一時三十五分 四〇、

全 一時五十四分 結麗阿曹篤〇、二三立方「センチメートル」ヲ五「プロツエ
ント」ノ乳劑トナシ之ヲ大約四十度ニ加溫シ「ゾンデー」
ヲ以テ胃内ニ注入ス

全 二時十五分

全 三 時

全 四 時

全 五時三十分 四一、六度 試驗中止

實驗例（其八）

家兎ノ體重二二三瓦手術前述ノ如シ

結麗阿曹篤ノ投與量前ニ同シ

時 分 體 溫 度 備 考

午前九時 十分 三九、六度

全 九時十五分 一 溫刺ヲ施ス

全 十時 五分 四一、三度

午後十二時 五分 四一、四度

全 一 時 四二、〇度

全 一時十五分 四二、一度

全 一時十六分 一

全 一時三十分 四一、二度

全 一時五十五分 四一、〇度

全 二時十七分 四一、一度

全 二時四十七分 四一、二度

結麗阿曹篤〇、二三立方センチメートルヲ五「プロツエント」ノ乳劑トナシ之ヲ大約四十度ニ加温シ「ゾンデー」ヲ以テ胃内ニ注入ス

全 四 時 四一、三度

全 四時三十分 四一、六分 試驗中止

實驗例 (其九)

家兔ノ體重一七五〇瓦手術前述ノ如シ

炭酸結麗阿曹篤ノ投與量家兔ノ體重一、〇基瓦ニ對シ一、〇立方「センチメートル」ヲ與フ

時 分 體 溫 度 備 考

午前十時十五分 三九、四度

全 十時十七分 一

溫刺ヲ施ス

全 十一時 四一、四度

全 十一時五十分 四一、六度

午後一時十分 四一、六度

全 一時十二分 一

全 一時二十三分 四〇、八度

全 一時三十八分 四一、〇度

全 一時五十三分 四〇、六度

全 二時十分 四〇、七度

全 二時三十二分 四〇、七度

炭酸結麗阿曹篤一、八立方「センチメートル」ヲ五「プロツ
 エント」ノ乳劑トナシ之ヲ大約四十度ニ加溫シ「ゾンデ
 一」ヲ以テ胃内ニ注入ス

全 三時二十九分 四一、一度
全 四時五十分 四一、五度 試驗中止

實驗例 (其十)

家兎ノ體重一四〇五瓦手術前述べ如シ

「グアヤコール」ノ投與量家兎ノ體重一、〇基瓦ニ對シ〇、二立方「センチメートル」ヲ與フ

時 分 體 溫 度 備 考

午前九時十五分 三九、二度

全 九時十七分 一

溫刺ヲ施ス

全 十 一 時 四〇、六度

全 十一時二十五分 四〇、七度

全 十一時二十七分 一

全 十一時四十三分 三九、八度

「グアヤコール」〇、三立方「センチメートル」ヲ五「プロツ

セント」ノ乳劑トナシ之ヲ大約四十度ニ加溫シ「ゾンデ

」ヲ以テ胃内ニ注入ス

午後十二時五十分 四〇、三度

全 一時三十分 四〇、三度

全 一時三十二分 一

全 一時五十二分 三九、七度

更ニ前同量ノ「グアヤコール」ヲ如上ノ方法ニテ胃内ニ注
入ス

全	二時 十分	三九、七度
全	二時 四十分	三九、七度
全	三時 十分	三九、八度
全	三時 三十分	三九、八度
		試驗中止

第二節 呼吸器ニ對スル作用

今茲ニ呼吸器ニ對スル作用ヲ述ベントスルハ他ナシ彼ノ石炭酸ノ肺及ビ氣管支ヨリ分泌セラル、ニ由テ考フレバ之ト同ジク芳香化合物ニ屬シ而シテ化學的體質ヲ同ジクスル結麗阿曹篤ニ於テモ彼ト同ジク肺及ビ氣管支ヨリ排泄セラル、コヲ思ハシム之レ恐ク臨床醫家ノ等シク想像セラル、トコロナルベシ如何トナレバ結麗阿曹篤ヲ長ク繼續シテ服用スル人々ニ接スルハ其ノ呼氣ハ常ニ結麗阿曹篤固有ノ誤認スベカラザル燻氣アルヲ以テナリ即チ服用セシ結麗阿曹篤ノ幾部分ニテモ吾人が想像スルガ如ク呼吸器ヨリ排泄セラル、モノトセンカ結核菌並ニ結核混合傳染ヲ起ストコロノ黴菌ニ對シテ或ハ破壞的ニ或ハ有毒的ノ作用ヲ營爲スベキコトハ強チ想像シ難キコトニアラズ果シテ然ル乎余ハ初メ家兎ニ就テ之ヲ檢セリ即チ家兎ノ體重ヲ量リ而シテ乳劑トナシタル結麗阿曹篤ノ藥用量(中毒量ニ至ラザル量)ヲ「ゾンデー」ノ助ケニテ胃内ニ注入ス爾後直ニ固定器ニ仰位固定シ氣管切開術ヲ行ヒ氣管「カニユウレー」ヲ挿入シ護謨管ノ助ケヲ借り呼氣ヲシテ亞爾箇保兒ノ可及の少量(大約一〇、〇立方「センチメートル」)ヲ盛リタル壘中ニ導入ス即チミユルレル氏ノ呼氣辨 *Miller'sches Ventil* ヲ利用シテ呼出器ノ一部分ヲモ亞爾箇保兒ノ外ニ逃散セザラシムルニ便宜ナル裝置ト方法ヲ以テセリ即チ呼出氣ハ全ク壘内ニ入レタル「アルコホール」中ヲ通りテ逃散シ吸氣ハ水ヲ以テ充テタル他ノ壘ヲ通りテ逃散シ毫モ呼氣ノ吸氣道ニ逆流スルコトナカラシメ而シテ試兎ハ常

態ト異ナルコトナク安靜ナル呼吸ヲ營ム爾後凡ソ二時間ヲ經過シ食道ノ切開術ヲ行ヒ「ゾンデー」ヲ胃内ニ至ルマデ挿入シ再ビ前ニ投與セシ同量ノ乳劑トナシタル結麗阿曹篤ヲ胃内ニ注入シ呼出氣ヲ新ニ充テタル少量ノ亞爾箇保兒中(大約一〇、〇立方センチメートル)ニ導入ス今最初ニ得タル亞爾箇保兒液ヲ取り之ニ過格魯兒化鉄液(五、〇プロツェント液)ノ三乃至十滴ヲ点滴狀ニ注加シ之ニ炭酸那篤留謨液ヲ加フルモ何等ノ變化ヲ呈セズ茲ニ於テ結麗阿曹篤ノ少量ト雖モ呼吸氣ト共ニ排泄セラル、モノトセバ其中ニ含有セラル、結麗阿曹篤ハ悉ク亞爾箇保兒中ニ吸収セラル而シテ以上ノ試藥ニ逢フトキハ初メ深綠色又ハ黃褐綠色等ヲ呈シ第二ノ試藥ニ由テ紫色ニ變ゼザルベカラズ次デ新ニ容レタル亞爾箇保兒中ニ呼吸氣ヲ通ズルヲ殆ンド三時間ニ亘リタル後チ此ノ亞爾箇保兒ヲ取りテ以上ノ試驗ヲナセリ然ルニ尙ホ且ツ何等ノ反應ヲ呈セズ而シテ以上ノ實驗ニ際シ呼吸氣ニ於テモ毫モ結麗阿曹篤ノ臭氣アルヲ呈セズ又數時間呼吸氣ヲ通ジタル之等ノ亞爾箇保兒ニ於テモ然リ即チ結麗阿曹篤ノ煙氣ハ毫モ認知シ能ハズ余ハ終ニ試兎ヲシテ窒息死ニ至ラシメ而シテ腹胸部ヲ切除シ左右兩肺ノ全部ヲ取り之ヲ適宜ナル硝子器中ニ入レテ細碎シ蒸餾「コルベン」中ニ少量ノ蒸餾水ト共ニ注加シ以テ少許ノ殘査ヲ留ムルニ至ルマデ蒸餾ニ附シタリ此ニ得タル蒸餾液ハ一種ノ不快ナル臭氣ヲ呈シテ彼ノ結麗阿曹篤ノ煙氣ハ認知スルヲ得ズ今コノ蒸餾液ヲ分液濾斗ニ入レ殆ンド之ト同量ノ依的兒ヲ注加シ能ク振盪シタル後チ暫時靜置シ二液層トナサシメ其ノ依的兒層ヲ分取シ之ヲ靜カニ蒸散セシメ茲ニ得タル一種油狀ノ殘査ヲ少量ノ亞爾箇保兒ヲ以テ處置シ而シテコノ亞爾箇保兒液ニ以上ノ試藥ヲ注加スルニ何等ノ變化ヲモ呈セズ而シテ之ニ對シ數回ノ實驗ヲ試ミシト雖ドモ毎常消極的ノ成績ヲ以テ終ヘタリ之ニ於テ余ハ更ニ進ンデ犬ヲ以テ之ガ實驗ノ材料ニ供セリ即チ秤量及ビ其他ノ手術ト操作ハ前述家兎ニ於ケルト同一方法ヲ以テセリ而シテ茲ニ於テ得タル結果モ亦消極的ノ成績ヲ以テ終ヘタリ是ニ由テ之ヲ見レバ結麗阿曹篤ハ其藥用量ニテハ(中毒

量ニ至ラザル量) 草食動物及ビ肉食動物ニ於テモ特ニ呼吸器ヨリ排泄セラル、コトヲ証明スルコトヲ得ズ

第三章 結 論

以上掲ゲタル動物試験ニヨリ余ハ次ノ斷定ヲ下サント欲ス

第一、結麗阿曹篤ハ其藥用量(中毒量ニ至ラザル量)ヲ人工的熱性ノ狀態ニアル家兎ニ投與スルトキハ二十分乃至四十分ノ後ニ體溫ハ一、四度乃至〇、六度ノ下降ヲ示ス

第二、結麗阿曹篤ハ之ヲ内服シタル後チ呼吸器ヨリ毫モ排泄セラル、モノニアラズ

第三、炭酸結麗阿曹篤ハ其藥用量(中毒量ニ至ラザル量)ヲ人工的熱性ノ狀態ニアル家兎ニ投與スルトキハ三十分乃至一時間ノ後ニ一、一度乃至〇、六度稀ニハ一、八度體溫ノ下降ヲ示ス

第四、「グアヤコール」ハ其藥用量ノ人工的熱性ノ狀態ニアル家兎ニ投與スルトキハ十六分乃至三十分ノ後ニ一、一度乃至〇、五度ノ體溫下降ヲ現ハス

之ヲ要スルニ結麗阿曹篤、炭酸結麗阿曹篤並ニ「グアヤコール」ハ肺結核患者ニ長ク繼續シテ内服セシムルトキハ良好ノ結果ヲ來スコトハ既ニ臨床醫家ノ說等シク一致スルガ如シ斯ノ如ク奏効スル所以ニ就テハ食欲ヲ亢進シ營養物ノ吸收ヲ可良ナラシメ以テ腸胃ノ異狀醗酵ヲ制止シ肺ノ局部現象等モ輕減スト云フニアリ而シテ余ノ實驗ニ徴スレバ前述ノ如ク藥用量ニ於テ弱キ下熱ノ作用ヲ呈ス之レ即チ熱發セル肺結核患者ハ勿論無熱ノ患者ニテモ常ニ些少ノ發情的熱發ノ傾向ヲ有スルモ所謂 *Febri* 及ビ *Afebri* ニ對シ有力ナル治効ヲ奏スルモノタルヤ明ラカナリ然リ而シテ結麗阿曹篤ハ内服後呼吸器ヨリ排泄セラル、コトハ毫モ証明シ能ハズ從テ肺結核菌並ニ結核混合傳染ヲ起ストコロノ黴菌ニ對シテ有毒制止ノ作用ヲ呈スルモノニアラズ而シテ之ヲ服用スル肺結核患者ノ結麗阿曹

篤固有ノ燻氣アルハ結麗阿曹篤ノ呼氣中ニ存在スルニアラズ又炭酸結麗阿曹篤及ビ「グアヤコール」ニ於テモ之ヲ服用シタル後チ呼吸器ヨリ排泄セラルノコトハ証明シ得ザルモノトス

引用書目

- 1) Dr. Kobert; Lehrbuch der Intoxicationen.
- 2) Oscar Liebreich; Encyklopaedie der Therapie.
- 3) Villaret; Handwörterbuch der Gesamten Medizin.
- 4) Dr. Tappeiner; Arzneimittellehre.
- 5) Dr. Binz; Arzneimittellehre.
- 6) Archiv für Experimentellen Pathologie und Pharmakologie Bd. 28. 11. 12.
- 7) Dr. Fischer; Lehrbuch der Chemie für Pharmazeuten.
- 8) Dr. Baunert; Gerichtliche Chemie.
- 9) Dr. Dornblüthe; Die Arzneimittel.
- 10) G. Arends; Neu Arzneimittel.
- 11) Dr. Abelnanz; Qualitative Chemische Analyse.
- 12) Dr. Frohner; Lehrbuch der Arzneimittellehre Sechste auflage.
- 13) Dr. Buchheim; Lehrbuch der Arzneimittellehre.
- 14) Dr. Schmiedeberg; Pharmakologie.
- 15) Dr. Albert; Real-Encyclopädie der Heilkunde II.

